



2012年11月2日  
公益財団法人ヤマト福祉財団

[社会福祉法人野田村保育会 野田村保育所再建事業]  
より内陸で高台に再建、子どもたちを安心して保育できる  
新保育所の完成を祝う、竣功式が行われました

10月30日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第2次助成先の一つである社会福祉法人 野田村保育会（以下：野田村保育会）では、念願の新しい野田村保育所が完成し、竣功式を執り行いました。

湾岸から西にわずか500メートルの場所にあった野田村保育所は、津波により建物は跡形もなく流され、現在もその門柱だけが残っています。しかし、日頃の避難訓練のおかげで職員16名、園児84名（0才～6才児）全員が無事に避難し、『奇跡の脱出』と話題になりました。野田村は、復興に奔走する保護者のために、子供たちを安心して預けられる施設の一刻も早い再建を目指し、安全な高台への移築を計画しました。ところが原形復旧が原則の国の補助を得られないため、本助成に申請。助成金2億8000万円をもとに再建事業を開始しました。

新しい保育所は、以前より1キロメートル内陸に位置し、17メートル以上の高台となりました。本年4月11日に地鎮祭を開催、9月9日には村民約300人によって上棟式が行われ、このたび村民待望の竣功式を迎えました。

竣功式で野田村保育会の岩岡吉比古理事長は「子どもたちに安心、安全な素晴らしい環境を与えていただき感謝しています。子どもたちが楽しく遊び回る姿が目に見えるようです」と挨拶。また小田祐土村長は「村にとって重要な子育て支援の拠点であり、目に見える復興として全村民が喜んでいきます」と話されています。



完成した保育所（前面より）



園内入り口に建立された竣功碑  
（被災の様態や助成の内容が記されています）



神事で玉串を奉てんする有富理事長

11月1日には、子どもたちの元気な歌声が響く中、  
新保育所の開所式が行われました

11月1日、園児や保護者、職員、関係者170名が集まり、開所式が行われました。

園舎の玄関前で、野田村保育会の岩岡理事長をはじめとする関係者によるテープカット、年長児童代表4名によるくす玉割りが行われました。続いて遊戯室で年長児童代表から「とても楽しみに今日を待っていました。みんなで大好きな鬼ごっこをしたいです。きれいな保育所を作ってくれてありがとうございました」とお礼のメッセージが発表されました。その後は園児による歌やお遊戯が披露され、多くの保護者、関係者から温かい声援が送られました。

玉川久美子所長は「環境を整えていただきましたので、この後は村を担っていく子どもたちをしっかりと保育できるように、職員が頑張る番です」と話されています。



園児代表によるくす玉割り



園児、保護者、職員、関係者約170名が参加



自然採光が明るい園内エントランス



園児お気に入りのカラフルな椅子



「お屋根のついた」砂場